



学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」
一心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつー」



とひの かふち

《学校だより》 第13号

令和3年11月1日発行
湯河原町立湯河原小学校
校長 北村和裕



6年生：表現「66歳の優旗」

運動会が、10月23日(土)に開催されました。当日は晴天に恵まれ、青空の下、子ども達はのびのびと精一杯活動しました。実は、全校の子ども達が顔を合わせるの、今年度初めてです。300人以上の子ども達と保護者の方々に囲まれて、大勢の前で演技をすることができ、とても満足そうでした。保護者の皆様には、密を避けるため、見学ゾーンで入れ替わっての観戦にご協力いただき、ありがとうございました。

最後まで 笑って楽しめ 運動会

子ども達の姿に何度も感動しました。徒競走では、転んでも起き上がって全力で駆け抜けた場面が印象的でした。あとわずかでゴールというときに転んでしまい、他の子はもうゴールしていました。それでも、その子はすぐに起き上がり、残りの3mをしっかりと走ってゴールしました。最後まで全力で走り抜く姿に感動しました。



1年生：徒競走



5年生：ブレイブ ストーリー～導きし者たち～

表現は、どの学年も素晴らしかったです。特に、子ども達一人一人の表情が素敵でした。満面の笑みを浮かべて踊る姿は、見ている側をも笑顔にしてくれました。手や足、上体の動きなど全身を使っていきいきと踊る姿からもうれしさや楽しさが伝わってきました。また、5・6年生は、一人一人に表れた真剣な表情ときびきびとした動きはもちろん、全員で表す全体の動きも美しく、一体感がありました。

運動会の舞台裏（コロナ禍の中で）

初めの案は、3種目だったのですが・・・

運動会は大きな学校行事ですので、7月の職員会議で体育的行事部から第1回の提案が出されます。その時は、各学年3種目（徒競走、低・中・高学年ブロックでの表現、学年種目）で実施という案が出され、了承されました。そして、夏休み中に各学年ともに、表現や学年種目の内容を考えていきます。しかし、夏休みに入ってから新規感染者の急増、特に子どもにも多く感染している状況が顕著となり、種目について再考しました。運動するときはマスクを外すということを考えると、当日までの練習の中で感染のリスクを高めてしまうことが懸念されたからです。8月中旬に再度検討を重ねた結果、昨年と同様に、各学年2種目（徒競走、学年ごとの表現）に変更されました。

練習時間がとれない中で

では、昨年と同じ流れでできたかということそうはいきませんでした。9月になってからも感染は収まらず、緊急事態宣言は結局9月末まで延長されました。この間、マスクを外すことになる運動は控えることにしました。普段なら運動会の1ヶ月前ぐらいから練習は始めるはずですが、今年は出遅れてしまいます。それでも、各学年では、教室で表現の映像を見たり、基本的な動きを練習したりするなど大きな動きのある運動はしなくても練習を進められるように工夫しました。そして、10月1日から体育館や運動場で本格的な練習に入り、子どもたちは本番を目指して集中して取り組んでいったのです。

「心はほかほか」な出来事

手伝います

運動会の3日前は、前日の雨で運動場に水たまりができていました。朝、何人かの職員がスポンジで水を取り除いていると、登校して昇降口で並んでいた数人の子が来て手伝ってくれました。状況を見て、自主的に判断し行動する実行力と優しさに拍手を送ります。



頼もしい6年生

6年生にとっては小学校生活最後の運動会でした。表現では、5年生の時にも使った旗をソーランにも用いて迫力が倍増しました。開・閉会式の進行や応援でも最高学年として全校をリードしてしっかりと進めていました。1～5年生の心をほかほかにする6年生の頼もしい姿でした。

(その他、子どもたちの様子は学校のブログに掲載中)

<https://www.yusho.site/>